

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 - 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 - 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 - 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 - 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 - 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 - 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 - 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 - 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 - 項目番号61 ○日常的な外出支援
 - 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 - 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 - 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホームあけぼの

(ユニット名) _____

記入者(管理者)
氏名

山田 みき子

評価完了日

20年 1月 20日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所の理念は「癒しと安心」。ご本人が心穏やかに楽しく、入居前の寂しさ苦しみが無くなるよう不安を取り除き安心な生活を送れるサービスを心掛けている。	○	必ず利用者の方と話をし、話を聞く。絶対に一日のうちに話をしない等のないようにし、利用者の方の不安の軽減につなげる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念ということに対して理解をし、日々の出来事の中からケアに結びつけ、チームケアでサービスに取り組んでいる。	○	日々のスタッフ同士、話し合う場所を出来るだけ設け、共通のケアが出来るように心掛ける。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	行事を行う度に、家族・地域の方達に連絡し参加を促し、近所への買い物を通じて地域の方と会話をしたり、ここがどういった施設かも説明し、理解してもらおうように努力している。	○	家族がどんな事でも話が出来る状況にする。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ボランティアといった形式にこだわらず、お茶飲みでもいいので立ち寄って頂ければ、と声掛けをしている。(畑で採れた野菜のおすそ分け・朝夕の挨拶)	○	面会など施設見学に来られた方達には、いつでも来所して話をさせて頂きたく思っていることを常日頃伝えている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(会津美里町・会津若松市)に参加・見学し、交流に努めている。	○	自治会・老人会参加等は現段階では無理な部分もある。地域活動として社協には利用者の作成した物を展示してもらおうよう依頼し、利用者の方をお連れして展示してある現場を見てもらい生き甲斐を感じてもらおう。

グループホーム あげぼの 自己評価

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所が開設して間もないこともあり、地域の高齢者等に対する取り組みはまだ出来ていない。	○	役立つことは何かをスタッフで考え実行したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は初めての評価なので、これから評価を受けた段階で具体的に取り組みたい。	○	多方面の方からの意見を取り入れ、指摘されたからという考えではなく、プラス志向の考えで意見の活用をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	第一日の運営推進が11月に行われ、実際には1月からの活動になり、これからのサービスの質の向上に活かしたい。	○	会議の内容を職員に伝えサービスの向上に努める
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者を訪問し、不明な点等の問い合わせや説明・指示を受けている。道路の整備について折にふれお願いしている。	○	事故等に関しては当ホームでもいつ起こり得ることも考えられるので、事故等の内容を公表して欲しい。それを踏まえてケアの見直しを随時行う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は今のところないが、把握している分は関係者に説明している。	○	研修会等に参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何かを理解・把握し、高齢者を敬い、言動には注意するよう心掛けている。	○	勉強会に参加し、質の向上に努める(2月20日に研修予定)。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分にしている。施設で起こり得る状況等も詳しく説明し、納得されて契約に至っている。グループホームは医療行為が出来ない旨を話し、重度化すれば退去の利用になり、医療機関に委ねるしかないことも説明させてもらっている。	○	継続
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が常にスタッフに話を出来る雰囲気を持っていけるよう心掛け、外部の方の訪問に対してはオープンにし、日常の生活を見て頂き、苦情受付箱を設置。	○	気軽に話を出来る状況にして、その事に関しても説明をし、意見を大いに取り入れたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族からの電話・訪問もあり、その都度生活面等説明させて頂いている。健康面・生活面、情報開示の希望があれば開示を行っている。	○	これからも同様の対応をする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱を設置し、いつでも意見を表せる状態にしている。	○	継続。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長・施設長よりの説明があったり、職員会議を開いたり、申し送りノートの活用により、職員が理解出来るよう努めている。	○	継続。職員会議の回数の増加。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	介護施設においては365日休みなしの職場なので、スタッフの勤務希望はある程度取り入れ負担を軽減し、行事等の職員の配置を調整している。	○	国の規定に違反することなく、出来る限りの人員の配置に留意していく。

グループホーム あけぼの 自己評価

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当事業所では該当せず。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は十分ではないが確保している。職員の中に資格者がいれば、スタッフを講師として勉強会をする。	○	レクリエーションインストラクターの資格を持っているスタッフがいるので大いに活用していく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	疑問等あれば同業者に質問したりし、不安な点は早く解決し、ケアの向上に努めるようにしている。	○	行事等、催し物がある場合など、声掛けし、参加して、お互いの施設の交流を深めている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ間やスタッフ個人で悩みや不安があればすぐに相談するように話をし、「～をする時間がない」等の不満が出ればどうしたら解決出来るを皆で模索しあう。	○	スタッフがいかに楽をするか、これは手を抜くということではなく、どうしたら効率よくケア出来る、スタッフ自身も余裕のある仕事出来るようにする
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	申し送り・ミーティング等において気付きがあればその都度職員に伝え、一方的ではなく、向上心が芽生えるよう努めている。	○	何でも話せる状況にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔から築いて来られた行動を妨げることなく、日々の活動の中で利用者の方が出来る事はお手伝いして頂き、解らないことは学び、ご本人が自信を持てるよう配慮し、共用性のある関係を築いている。	○ 利用者の声に耳を傾ける。言葉を聞くということを忘れない。否定をしないで理解し合える関係を築き、一つの家族を作っていきたい。

グループホーム あけぼの 自己評価

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者の日常生活のことを詳しく説明し、ご本人・ご家族と共に楽しく過ごせる関係を築いている。	○	継続
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の希望があれば電話をかけて頂いたり、訪問して頂くようお願いしたり、疎遠にならないよう配慮する。一緒に話の輪に入り、家族関係が良いものになるよう努めている。	○	継続
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にはホームは常にオープンにし、ご本人と楽しく過ごしてもらえるよう配慮している。	○	継続
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は殆どの方がホールにおられ、気の合う仲間と一緒に作業し、その中でお互いに助け合うのを援助する。	○	継続
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された利用者の家族が現在でもボランティアとして来所され、利用者の方達と一緒に楽しく過ごされている。	○	これからも良い関係を保ち、利用者の方へのボランティア・心の支えになってもらうよう依頼する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望・ご家族の希望にそったケアプラン作成に取り組み基本的には本人の希望を優先している。入居者の方の状況により推測の部分もある。	○ 継続
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際の実調、家族からの情報、ケアマネとの連携により把握に努めている。	○ 継続
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホーム入居前の事前の調査を十分に行い、情報に漏れないよう現状を把握するよう努めている。	○ 継続
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護日誌から見出される内容をケアマネとスタッフ・家族が相談しながら作成している。	○ 継続
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に関係なく、変化があつたり日常のケアの中からの発見があれば早急に担当者会議等を開催し、アセスメントを作成し、現状に応じた計画を作成している。	○ 継続

グループホーム あけぼの 自己評価

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌の記入、申し送りのノートを作成し、日常の状況を把握し。情報を見逃すことなくスタッフ同士の関係をも密にし、連係情報の共有、改善への取り組みを行っている。	○	継続
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現段階では本人の意向という部分についてはあまり見えて来ないが民生委員・警察・消防には連携を取り、協力・援助して頂くようお願いしている。(ライオンズクラブの寄付・小学校からは車椅子の寄付)	○	今年度は、ボランティア・教育関係機関の協力を依頼し、連携を図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退去された時の為に各事業所、包括支援センター、他施設の連絡を取り合い支援している。退去の可能性のある状況に関しても説明している。	○	継続
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、支援センターとの協働はしていない。運営推進会議への要員には依頼。	○	支援センターとの協働に努めていく

グループホーム あけぼの 自己評価

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	継続
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	継続
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	継続
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	方針を明確にし、契約時においても詳しく説明したい
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		対応しない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活の様子を詳しく説明し、情報交換によって利用者の方がとまどうことなく移られた場所に馴染めるよう話し合いを設ける。	○	継続
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報のファイルは外部の人の目にふれないよう書庫に保管してある。個人名を出し攻撃を受けることがないように配慮し、誇りについては尊厳を受容できるよう支援している。	○	継続
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何かをして頂く際にもこちらの要求を押し付けることなく、問いかけをし、ご本人の意思に従うケアを心掛けている。	○	継続
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の行動を強制することなく、利用者が見たいことをしてもらう。ただリハビリ・レクリエーションに関しては声掛けにてお誘いし、出来るだけ参加してもらうよう補助的な役割で支援している。	○	根をつめて行うことがあるので、職員が心配りをし、見守りをしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	ご本人の好みで着替えをして頂くよう、声掛けをしている。現在のところ、理美容はご本人の希望がない為施設側で依頼し来所している。その方に合ったヘアスタイルをして頂くようお願いしている。	○	理美容に関しては、再度希望をお聞きし、ご本人の希望に添いたい。

グループホーム あけぼの 自己評価

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	利用者の方にお手伝い頂くときは、利用者の方への配慮を忘れない。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	他の利用者の方の飲酒（行事等）については模索中
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	ノムダスチェック表での管理の徹底。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	継続
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	継続
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	○	継続

グループホーム あけぼの 自己評価

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	認知症の独特の行為がある為、持っているお金は把握しておく、受診の際や買い物希望の時は同行して買い物をしてもらっている。	○	お金を遣うという機会を多くしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	その日の天候、利用者の健康状態等を把握して、職員と散歩・買い物に出掛けたりしている。	○	天気の良い日などは外にイスを出し、皆様でひなたぼっこをしてもらっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	行事として計画を立て、遠足・花見・紅葉狩り等、弁当を作り全員参加にて出掛けている（会津藩公行列・鼓笛パレード）。	○	他施設との交流を深めたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	希望があれば電話もして頂かし、疎遠にならないよう家族に連絡し電話を掛けてもらったり面会に来てもらったりお願いしている。年賀状等も書ける方だけでもお手伝いしながら支援。	○	継続
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	日常は誰でも出入り自由で、来訪者の方も入居者の方も居心地良くその時を過ごせるよう配慮している。	○	継続 チャイムを押さないで来所される方が多いのでチャイムを押して頂くよう協力を仰ぐ
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員も拘束について理解し、身体拘束をしないケアをしている。	○	継続

グループホーム あげぼの 自己評価

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	今後も鍵は掛けない。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	居場所の確認と危険がないか常に注意を払う。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	置き場所を検討していきたい。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	行方不明、近隣の方々にホームの状況を説明し、何かあったらホームまで連絡してもらうよう声掛けをしている。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	消防署には連絡をし、訓練をする依頼予定はしているので早急に実施したい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	避難訓練の実施。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク等については、家族に説明、理解を頂いており、もし事故が起きた場合は責任の所在を明確にする。損害保険に加入している。	○	利用者の状況に合わせ、その都度家族との話し合いを設ける。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の健康チェックを実施し、異変があれば施設長に報告・連絡を職員間でも情報を共有して早めの対応、状況の記録をし、医療機関との連携を取っている。	○	継続。利用者の方への目配り・気配りを怠らない。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを利用し、名称・効能・副作用を職員が再確認出来るようにしている。	○	服薬の変更があった場合は、病院へ説明書を依頼する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ノムダス表を使用し、飲水・排便のチェックは毎日把握し、便秘にならないよう野菜等を多く取り入れた食事を提供するよう取り組んでいる。	○	ノムダスチェック表での管理の徹底。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人に合わせた声掛けにより、毎食後実施している。	○	継続。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導を受けているノムダスチェック表を活用して個人の管理を行っている。	○	栄養士には年に2、3回の指導を受ける。チェック表の活用。

グループホーム あけぼの 自己評価

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	11月には全員（入居者・職員）インフルエンザ予防接種。入浴の際に身体全体の確認を行い異常がないか再確認し、発見した場合早急に対応を仰ぐ。手洗い励行（洗面所に手洗い用洗剤・消毒アルコールの設置）。	○	季節を問わず、油断せず、日常的に清潔に配慮する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は毎日行い、賞味期限の確認。調理用具は使用前・使用后注意を払い、殺菌用洗剤で消毒している。	○	いつ、どこでも、誰もが常に清潔に心掛ける。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランター・庭には花を植え楽しみ、玄関はいつでも入り易いように歩行の妨げにならないよう工夫している。	○	どなたでも出入りがし易い雰囲気作り心掛ける。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は皆様でお休みになれるようコタツを設置し、季節毎の花を飾り、自然に閉まる引き戸になっている。廊下は写真を飾ったり、作品を展示したりしている。	○	花や緑のある生活空間作りをする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・食堂にソファを置き、食事以外はそこで休まれたり、テレビをご覧になれるスペースがあり、ご本人が居たい場所に居るように配慮し、季節に応じた居場所作りもしている。（デッキの利用）	○	スペースを最大限に活用出来るよう考える。

グループホーム あけぼの 自己評価

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	契約の際に自宅でご使用になられた物を持って来 て頂くよう説明はしているが、なかなか100%と はいかず、殺風景な居室もある。家族の写真を 貼ったりプレゼントを置いたりして工夫してい る。	○	契約時に説明をし、理解していただく
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	天気の良い日などは、窓の換気を行い、必要以上 に寒くしたり、暖かくしないで、利用者の方の状 況を見ながら、ご本人の希望に応じて配慮してい る。	○	継続
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	常にご本人の自立する力を活かせる支援をしてい る。	○	継続
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ご本人が出来ることをその方の役割として活かし ている。一時に進めようとするとう混乱を起こし、 不安の原因ともなるので声掛けには十分注意を払 うようにしている。	○	継続
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑があり、冬以外は毎日畑に行き草むしりをし たり、収穫したりし、食材として活用している。ベ ランダでは干し柿を吊るしたりお茶の時間を過 ごしたりして活用している。	○	別な活用法はないか常に考えていきたい

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者の方の笑顔がいつも見られる関わりを常にもつ。
- ・健康状態に留意しながら美味しいものを召し上がっていただく（お茶の時間には手作りのものなるべく多く提供するよう心掛けている）。
- ・殆どの利用者の方がホールにて過ごされている。
- ・ノムダス表活用により、排尿・排便把握し、パットの使用を減らす取り組みをしている。